

第一回中間報告

(2016年9月12日～2016年12月26日)

国際ロータリー第2710地区

2016-2017年度 グローバル補助金奨学生

石川祐実

1. 報告書提出日：2016年12月26日 第1回報告

2. 基本情報：

- ・ 氏名：石川祐実
- ・ 派遣ホストクラブ及びカウンセラー：徳山ロータリークラブ、守政和浩様
- ・ 受け入れホストクラブ及びカウンセラー：Rotary Club of Redbridge, Mr. Tony Betts
- ・ 教育機関：キングスカレッジ・ロンドン
- ・ 専攻分野：国際保健（医療従事者教育）

3. 学業面での成果：

私の所属する国際保健コースは、**Health Professions Education, Global Surgery, Disasters & Adaptation, Conflict & Security** の4つの専攻に分かれており、私は **Health Professions Education** に属しています。カリキュラムは10週間にわたる一連の授業で1モジュール(20単位)が構成されており、1年間で専攻分野のモジュール2つとコース共通のモジュールを3つ、研究方法(20単位)及び修士論文(60単位)の合計180単位を取得します。9月下旬から1月中旬までの1学期は主に専攻分野のモジュールから **Principles of Education for Health Professionals** を、コース共通のモジュールから **Global Burden of Disease** を受講しています。その他に様々な研究手法を紹介する研究方法のモジュール、総合的なサポートを行う **General Tutorial**、そしてフランス語の授業も合わせて受講しています。

国際保健コースのクラスメイトは34人で、約半数が留学生です。留学生の多くが北米から来ており、その他アジアとアフリカからの留学生が数名ずついます。クラスメイトのバックグラウンドは大半が現役の医師で、その次に看護師、助産師が続きます。医療分野以外のバックグラウンドを持つ学生は少数派です。クラスメイトとの関係は良好で、リーディングリスト以外で参考になった文献をシェアしたり、国際保健に関するイベントがあればお互いに誘い合って参加したりしています。その他にも放課後の食事や映画、週末にホームパーティーや旅行に行くこともあります。



(クラスメイト主催のホームパーティー)

以下では今学期の主なモジュールである **Principles of Education for Health Professionals** と **Global Burden of Disease** についてそれぞれご報告させていただきます。

Principles of Education for Health Professionals

このモジュールでは、教えること及び学ぶことに関する理論とそれを医療従事者教育に応用する方法を学びます。計 10 回の授業のうち前半は、教えること及び学ぶことに関する理論そのもの、それを考慮した学習成果の測定方法及びカリキュラムデザインの方法を学びました。その後後半の授業では、様々な手法を用いた医療従事者教育とその学習成果を学びました。各授業は 3 時間の構成で前半は講義、後半はグループディスカッションでした。グループディスカッションでは主に講義で学んだことを踏まえて教育指導案を作成するという内容でした。

このモジュールでは、2 学期に医学部の 2 年生に対して実際に教育を行います。10 人の受講生で 10 週間にわたる国際保健のモジュールを担当します。各授業は 3 時間の構成で、私は非感染症疾患の授業を担当します。授業では主に非感染症疾患の基本知識、感染症疾患から非感染症疾患への疫学的移行とそれが発展途上国及び先進国のそれぞれに与える影響、非感染症疾患の抑制方法とその難しさについて扱おうと考えています。グループディスカッションでは、1 週前の授業で扱っている感染症疾患に対する抑制方法とこの授業のトピックである非感染症疾患の抑制方法を比較します。非感染症疾患の抑制には感染症疾患の抑制に比べて長い時間がかかること、その分費用もかかることを学びます。

このモジュールは 2 学期に行う授業の教育指導案(25%)、実際の授業(50%)及び授業後の考察レポート(25%)で評価されます。

Global Burden of Disease

このモジュールでは、国際保健分野で重要とされている各疾患について、その症状や感染経路などの基本的知識、罹患率及び死亡率の国際的なパターン、国際保健分野での重要性、コントロール方法を学びます。計 10 回の授業で扱うのは主に熱帯病、感染症疾患（主に HIV 及び結核）、非感染症疾患、環境の変化に影響を受ける疾患、メンタルヘルス、手術を行う疾患及び外傷です。各授業は 3 時間の構成で前半は講義、後半はグループディスカッションでした。グループディスカッションでは主に講義で学んだことを踏まえて対象の疾患に対する対応策を作成するという内容でした。その他モジュールの一環として、11 月 11 日、12 日にロンドンで開催された The 2016 Global Health Film Festival に参加しました。

このモジュールは、熱帯病についてのポスター及びそのプレゼンテーション(20%)、感染症疾患の対応策についてのエッセイ(30%)、The 2016 Global Health Film Festival の映画を取り上げたエッセイ(20%)及び学期末の筆記試験(30%)で評価されます。筆記試験以外の試験については既に終了しています。熱帯病について



についてのポスターでは、コロンビア（ポスタープレゼンテーション）

で行われた、リーシュマニア症に関する二つのデータコレクションに着目しました。同時

期に行われた手法の異なるデータコレクションの結果を比較し、その感染経路やコロンビアの文化的背景がそれぞれの結果にどのように反映されているか、どちらの手法がより妥当と考えられるのかを考察しました。感染症疾患についてのエッセイは、シオラレオネでエボラが拡大した原因について社会的・文化的な側面から考察するものでした。このエッセイでは、伝統的葬儀と埋葬の習慣、伝統的治療師の存在、秘密集団の儀式及び国境を越えて移動する生活様式に着目し、それに対して取られた対応策とその効果を考察しました。The 2016 Global Health Film Festival のエッセイではスリランカのアルコール依存症の啓発のために作成された **Kasippu** を取り上げました。メディアによる保健分野の啓発活動の効果を検証した論文を集めて比較し、映画 **Kasippu** が患者、家族、コミュニティの3つのグループに与える影響をそれぞれ考察しました。

4. 受入地区でのロータリーとの関わり、奉仕活動、カウンセラーとの交流

9月23日から3日間の日程で Warwick にて開催された **Link Weekend 2016** に参加しました。このイベントには今年度のイギリス国内の奨学生が招待され、イギリスの文化やロータリーの活動についての紹介、奨学生同士の交流が行われました。 (Link Weekend2016 に参加した奨学生と)



また、10月2日には York Gate にある 1130 地区の本部で行われた奨学生歓迎パーティーに参加しました。ここではロンドンでの暮らしのアドバイスや 1130 地区のロータリーの活動紹介、奨学生同士の交流が行われました。このパーティーではクラスメイトに奨学生がいることが分かり、彼女の友人やカウンセラーを紹介してもらうなど、交友関係が広がりました。さらに10月23日から3日間の日程で Eastbourne にて開催された **Rotary District 1130 Conference** に参加しました。ここでは参加した奨学生全員でプレゼンテーションを行いました。この Conference では今年度同じく **Rotary Club of Redbridge** に受け入れられる他2人の奨学生と出会い、イベント後 Eastbourne を観光するなど友好関係を深めることができました。その後彼女達とは **Rotary Club of Redbridge** のイベントの情報交換をしています。 (同じクラブに受け入れられる奨学生と)



現地カウンセラーの **Betts** さんは日本出国前からメールで連絡を取ってくださり、イギリス到着時には空港まで迎えに来てくださりました。また、イギリス到着時に寮が決まっておらず、到着後くるようにと指定されたオフィスも当日閉まっているというトラブルがありました。12日はひとまずホテルに宿泊し、翌日再び **Betts** さんに同行していただき、改め

でオフィスで入寮手続きを行いました。その後9月13日の例会で受け入れホストクラブの皆さんに紹介していただきました。10月16日には受け入れホストクラブの coffee morning に参加し、ロータリアンの皆さんと交流する機会をいただきました。1週間後の Rotary District 1130 Conference についてのアドバイスもいただくことができました。

5. 直面した課題、問題点

上記にも記載しましたが、留学して最初に直面した課題は、イギリス到着時に寮が決まっておらず、さらに営業時間内にも関わらず大学のオフィスが閉まっていたことです。この件で現地カウンセラーの Betts さんにはとてもお世話になりました。翌日 Betts さんが希望の寮に入れるよう交渉してくださり、無事第一希望の学生寮に入寮できました。空港、ホテル、オフィス、寮と大きなスーツケースを運び続けなければならず、それも Betts さんが手伝って下さいました。Betts さんの温かいサポートに心から感謝しています。

大学生活が始まってから直面した課題は、留学生に対する英語サポートが不十分であったことです。大学側が用意している留学生用の英語クラスはおそらく学部生を対象に構成されたもので、何度か出席してみましたが、修士課程で課されているエッセイを書くには十分でないと感じました。この課題をクラスに相談したところ、多くのクラスメイトがブルーフリーディングを買って出てくれました。また、プレゼンテーションの練習を実施することや重要なグループディスカッションの議事録を残すことなども提案してもらい、今では英語ができなくて困ることがほとんどなくなりました。この素晴らしい環境に感謝し、今後も英語力の向上に努めます。

また、クラスメイトの大多数が現役の医者、看護師または助産師で仕事を1年間休職してきており、コース終了後は元の職場に戻っていきます。しかし私は日本の修士を休学してきており、帰国後は復学しますが、すぐに就職についても考えなければなりません。皆が一斉に就職活動始める日本の社会とは違う環境に居るので、情報収集はもちろん、クラスメイト以上に今後のキャリアを見据えて研究に取り組まなければと感じています。

6. 今後の課題、目標

今後最大の課題、目標は修士論文の研究で成果を上げることです。私の所属するコースの修士論文は capstone project といわれる実務研修のなかで書き上げることになっています。学生はキングスカレッジまたはパートナー機関の研究チームに所属し、研究員の指導を受けながら研究を進めます。私は Colombo Twin and Singleton study というスリランカ、コロンボのデータを分析するチームに配属になりました。1学期にリサーチクエッションの設定とデータ申請書類の作成を行ったので、クリスマス休暇中に文献のサーベイを進め、年明けからデータの分析を始めたいと考えています。